

2020年11月6日
千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR部

2021年3月期第2四半期説明会(電話会議)発表要旨 (2020年11月5日開催)

2020年11月5日に開催致しました2021年3月期第2四半期決算説明会(電話会議)において、弊社の発表内容の要旨を以下にまとめております。

【決算概要】

1. ハイライト

- 業績は通期予想に向けて概ね順調に推移している。
- 完成工事高、純利益は通期予想に対して各々58%、83%の進捗。
- キャメロン LNG 案件は第3系列を7月に完工、全系列について顧客宛引き渡し完了した。
- その他の案件は、新型コロナウイルス感染症拡大に対して、ワーカーをはじめ、関係者の安全・安心を最優先として、顧客と協力し、対応策を講じて慎重に遂行中。
- 受注は、海外の大型ターゲット案件は、本年度後半に最終投資決定(FID)が予定されており、確実に受注していくことを目指す。

2. 損益計算書

- 完成工事高は1,615億円、通期予想の58%の進捗。
- 完成工事総利益は111億円で、通期予想の43%の進捗。
- 完成工事総利益率は6.9%。通期予想9.3%を下回っているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響について収束の目途が立たない状況下、順調に進捗している案件がある一方で、国内、海外とも、設計・調達・建設の各業務に影響を受けている案件が発生しており、遂行状況にバラツキが出ていることによる。
- 販売費・一般管理費は60億円、前年同期比20億円減少。多岐に亘る項目でのコスト削減が着実に成果を上げている。
- 純利益は58億円で、通期予想の83%と順調に進捗。

3. バランスシート

- 資産は3.851億円から3,252億円に598億円減少。キャメロン LNG 案件の完工など、手持工事の進捗に伴い、資産項目では、現金・預金等、営業資産、JV持分資産、負債項目では営

業負債が減少していることによる。

- 自己資本は、9月末で309億円、自己資本比率は9.5%に向上した。今後も利益を着実に積み上げることで、中期経営計画で目標としている自己資本比率20%以上の早期達成を目指す。

4. 自己資本・利益要因分析

- 第2四半期の完成工事総利益111億円の内訳は、エネルギー分野98億円、地球環境分野13億円。
- 販管費は、コスト削減を進めた結果、前年同期比マイナス20億円。
- 営業外損益は主に為替関連によりマイナス4億円、特別損益等は関係会社売却益でプラス4億円、米国法人税の還付によりプラス6億円が寄与して、純利益は58億円を確保。
- 以上の結果、自己資本比率は3.2%改善し、9.5%になった。

5. 受注高・受注残高

- 第2四半期の受注高は601億円。海外大型ターゲット案件は本年度後半に最終投資決定が予定されているので、確実に受注することを目指す。
- 特にエネルギー分野では、特にエネルギー分野においては、カタールLNG拡張案件に注力している。9月15日に入札が実施され、現在、顧客と様々な協議を進めている。
- 地球環境分野では、医薬ライフサイエンス案件の受注を積み上げた。本年度後半もこの分野で更なる受注を目指す。
- 今後、地球環境分野を伸ばしていくことにより、資源価格に大きく影響を受けることのない事業ポートフォリオを確立し、安定的な収益構造への変革を目指していく。

6. 通期業績予想は変更なし

参考資料

I. 完成工事高、受注高、受注残高の分野別・地域別内訳

(説明割愛)

II. 主要遂行中、主要完工案件

- 主要遂行中案件は、いずれの案件も、顧客と協力して、新型コロナウイルス感染症対策を講じて工事遂行を進めている。

Ⅲ. 成長戦略

➤ デジタルトランスフォーメーション

● プラントの空間自動設計

- ✓ 高度な CAD 技術を有するベンチャー企業の(株)Arent 殿と共同で(株)PlantStream を 8 月に設立。
- ✓ (株)PlantStream は、1,000 本の配管設計を 1 分間で行い、空間自動設計にかかる工程の 80%程度を削減、従来の 5 倍の速度で三次元モデルの作成を可能とする革新的な設計ツールを開発した。
- ✓ スライド右上にイメージ写真を掲載、QR コードから動画がご覧いただけるので、お時間のある際にご視聴ください。

● IT 基盤の強化

- ✓ IT 大手の TIS(株)殿と共同で TIS 千代田システムズ(株)を 10 月に設立。
- ✓ 統合 IT システムの開発・運用を主に、社内外のデジタルイゼーションおよび IT ソリューションによる価値創造を推進していく。

➤ フロンティアビジネス

- 炭素循環、新ユーティリティ、医薬・ライフサイエンスの 3 分野に注力している。
- 水素社会実現に向けた取り組みとして、現在、当社が開発した SPERA 水素を用いた世界初の国際間水素サプライチェーンの実証運転を実施中。ブルネイから SPERA 水素を用いて水素を輸入し、国内で初めて火力発電に燃料として供給している。現在、順調に稼働が進んでいる。QR コードから動画がご覧いただけるので、お時間のある際にご視聴ください。
- シンガポール政府、シンガポール民間企業と共同でシンガポールでの水素社会実現に向けた取り組みを進めている。当社が開発した SPERA 水素はシンガポール関係者からも高く評価されている。

当社では、「LNG を中心とするハイドロカーボン主体の既存 EPC 事業」と、「脱炭素、炭素循環社会に向けた、EPC に依拠しない新規事業」をバランス良く伸ばしていくことで、持続可能な成長を目指していく。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみには依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。